

ライオン油脂(株)	○谷	直子
お茶の水女大家政	矢部	章彦
	林	雅子

1. ポリエステル-綿混紡布の蛍光増白処理は、一般に、ベンツオキサゾール系の分散染料でポリエステルを染色後、スチルベン系の直接染料でモメンを染色する方法がとられている。しかし、処理条件如何によっては、この2種染料による増白効果が十分に発揮されず、直接染料の後処理を施すと、むしろ蛍光が低下するという異常な現象が見られる。この原因を究明し、さらに効果的な増白処理の方法を見出すことを目的とする。

2. ポリエステル-綿混紡布(ポリエステル65:綿35)の他に、各繊維単独の相での染料の挙動を明らかにするため、ポリエステル布、および綿布(晒金巾 2003番)に対しても、分散染料(Uvitex ERN)、直接染料(Kayaphor B conc, Whitex BK)それぞれによる単独処理と2成分処理を施し、分光反射率曲線から増白効果を検討した。又分散染料による綿布の汚染を考え、後処理の前にソーピングを施し、その効果も併せ検討した。

3. 分散染料が綿に付着している場合、これは後処理としての直接染料の染着率には影響しないが、蛍光特性に大きな影響を与え、直接染料の単独処理によって得られる蛍光よりも低くなるという興味ある事実が見出された。このことは、直接染料と分散染料が相互に影響し合い、濃度消光現象を起しているものと考えられる。従って、2成分処理の場合に高い反射率を得るためには、充分なソーピングを施す必要がある。